神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

プロローグ

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-12-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 竹谷, 和之, TAKETANI, Kazuyuki メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/2351

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

プロローグ

竹谷　和之

2016 年 9 月 5 日、スペイン・ドノスティア／サン・セバスティアン市は快晴であった。私たち三名（西谷、船井、竹谷）がミラマール宮殿に到着した時は、心地よい海風が迎えてくれた。コンチャ湾の絶景を見渡せるこの場所は国王の離宮として利用されていたが、のちに市に返還された。それ以来建物は文化センターとして活用され、庭は憩いの場所として市民に愛されている。

2015 年秋、第 3 回国際セミナー開催を私からバスク大学教授ヨセバ・エチェベステに打診した。突然の報に驚きながらも、彼は開催に向けたイメージが浮かんだのか、可能性を模索することになった。ヨセバはバスク大学と協議し、当該セミナーを「夏季講習 Lectura de Verano」という冠を乗せて開催にこぎ着けた。そして日本の EU・ジャパンフェスト日本委員会から開催経費の負担を申し出ていただき、手続きに紆余曲折はあったが無事開催することができた。ドノスティア／サン・セバスティアン市は 2016 年「ヨーロッパ文化首都 Capital Europea de la Cultura」として、EU の支援を受けながら、都市開発およびその魅力発信に全力を傾けていた。本セミナーはそのプログラムの一環としての位置づけもあり、学術交流協定大学との国際セミナーは思わぬ展開となった。

当初は稲垣正浩先生（元本学客員教授）も参加される予定であったが、2016 年 2 月に急逝された。故稲垣先生はスポーツ史・スポーツ文化論の理論構築に邁進され、バスクで開催される国際セミナー参加に意欲満々であったが、残された私たちに託されることになった。そこで本学客員教授西谷修先生、21 世紀スポーツ文化研究所主幹研究員の船井廣則先生にご参加いただき、バスクへと向かった。テーマは前回（第 2 回国際セミナー：2012 年神戸市外大開催）に引き続き「グローバリゼーション」と「伝統スポーツ」を扱うことになった。前回はグローバリゼーションの功罪に言及しつつ伝統スポーツとの関係を東西から議論されたが、今回はグローバリゼーションの影で存在が見えにくくなっている伝統スポーツに焦点が当てられた。グローバル化で消失する要素や創造される価値、したたかにグローバル化を利用するスポーツや潜在化する意味、ディアスポラで変容する伝統スポーツ、東西における伝統スポーツの類似性、東洋

的身体の理解など多岐にわたる発表が準備された。バスク大学教員だけでなく、バルセロナ市近郊のリェイダ大学や、米国リンフィールド大学教員も当該テーマに参加し少しずつ広がりを見せはじめた。

今後、国際交流を含めながら、思考と思考を結びつける刺激的な展開が可能となるように、交流協定に基づく魅力的な国際セミナーを継続したいと考えている。

本号掲載の全論文は、第 3 回国際セミナー発表に加筆・修正をしたものである。

2017 年 6 月 15 日